

すっかんぼ

1995年 5月号

カエルたちの季節

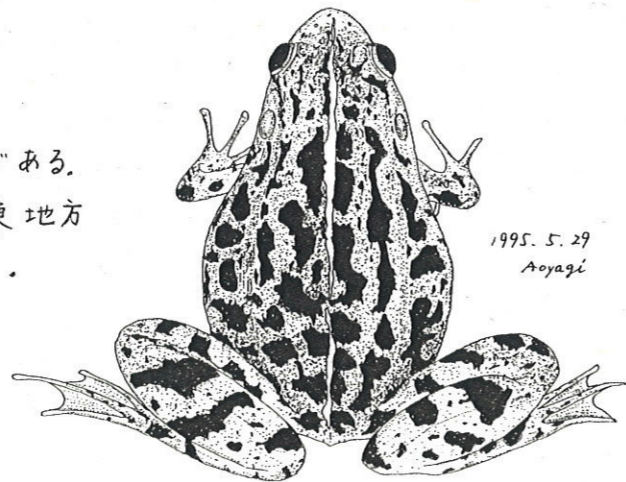
学校からの帰り道、午後7時をすぎると、あたりは、すっかり暗くなっている。カーステレオのスイッチを切ると、聞こえてくるのは、カエルたちのにぎやかな合唱だけだ。毎年のことであるが、今年もカエルの季節がやってきた。カエルが嫌いな人の方が多いかも知れないが、その鳴き声だけは、なつかしく思い出す日がきとくるだろう。(こはいかもり)

ところで、鳴き声の主(つまり、カエルそのもの)を見たことありますか。世の中、二人にカエルだらけでも、実際に鳴いている姿は、あまり見かけないのである。というわけで、今回は、学校の周辺に生息しているカエルたちを紹介しよう。

トウキョウダルマガエル

田んぼの合唱の主は、このカエルである。トノサマガエルとよく似ているが、関東地方には、トノサマガエルは生息していない。

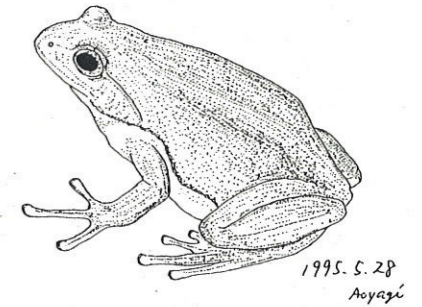
5月ごろ、田んぼがトラクターで耕やされ、水が入ってくると、それまで土の中で冬眠していたこのカエル



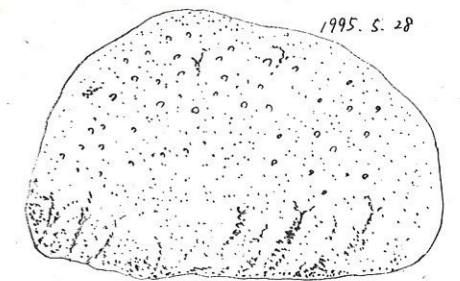
は目を見せ、活動を開始する。日中は、田んぼの周囲の土手などで日没まで静かに潜んでいる。そして日が暮れると、水田に集まって合唱を始めるのである。ただし鳴くのは、雄だけで、水田内に数個体から数十個体が集まり、自分のなわばりを宣言し、雌を呼ぶために鳴くのである。産卵の準備ができた雌は、雄の合唱に近づいていき、気に入った雄とペアになり産卵する。こうした習性から、昼間は、あまり目立たず、姿をみかけることが少ないのであろう。

シュレーゲルアオガエル

トウキョウダルマガエルの鳴き声にまじって、コ・コ・コ・コ...と、ややカン高い鳴き声が聞こえることがある。シュレーゲルアオガエルの鳴き声である。ドイツ人のシュレーゲルさんがつけた名前だ。このカエルの仲間には、モリアオガエルというのがある。木の枝に泡につまられた卵を産むことで有名である。栃木県内では、日光や塩原などの山間部に行かないと、みることはできない。ところが、このシュレーゲルの方は、平地の田んぼの土手の中などに泡でつまられた卵を産むのである。また、土の中で鳴いていることが多く、その姿をみつけるのは、容易ではない。時々、トラクターで土が耕やされた後に水が入ると、泡がほらかりと田んぼにうかんできることがある。そうすると、カラスなどの鳥につつかれ、食べられてしまうのである。



ちなみに、このスケッチの泡は、1-4の家の近くの田んぼ(岩舟町小野寺)にういていたのをもらってきた。中に卵が入っているが、他のカエルの卵と異なり、色がましろなのは、おどろいた。



泡につまられた卵 ×0.5